

(別紙様式)

平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
産学官連携フュージビリティ・スタディ
共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 2050 年の北極域

研究期間: 平成 28 年度～平成 28 年度

| 共同研究員 | 氏名 | 所属・職名 |
|------------|--------|----------------------------------|
| 研究代表者 | 長部 太郎 | 株式会社 日立製作所基礎研究センタ・主任研究員 |
| 研究分担者(拠点外) | 泰永 裕之 | 株式会社 北海道二十一世紀総合研究所 シニアコンサルタント |
| | 福田 潤 | ESRI ジャパン 株式会社 技術推進グループ |
| 研究分担者(拠点内) | 大塚 夏彦 | 北海道大学 北極域研究センター・教授 |
| | 杉本 敦子 | 北海道大学 北極域研究センター・教授 |
| | 齊藤 誠一 | 北海道大学 北極域研究センター・センター長・教授 |
| | 高橋 美野梨 | 北海道大学 北極域研究センター・助教 |
| 研究協力者 | 原 俊彦 | 札幌市立大学 デザイン学部・教授 |
| | 大西 富士夫 | 北海道大学 北極域研究センター・准教授 |

【研究の内容】

北極域研究共同推進拠点産学官連携支援事業産学官連携フュージビリティ・スタディ(拠点 FS)で進めている”北極域の産業発展のシナリオ”に必要な情報を収集するため、下記の内容で、研究集会を開催した。

■日時: 平成 29 年 1 月 16 日 13:00-17:00

■場所: 北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点 2F ディスカッションプラザ

■参加者: 13 名

■講演内容

研究代表者による研究集会の趣旨の説明の後、以下の 5 人の方に講演をいただいた。

(1) 北極から地球がみえる(朝日新聞社社会部 中山由美氏)

中山由美氏は南極、北極にご自身で取材に行かれており、今回は、グリーンランドの氷床の融解、グリーンランドで先住民族として生活をおくっている大島育雄氏について講演いただいた。また、南極条約のような取り組みを、北極でも実施するべきでは、というご意見をいただいた。

(2) 人が暮らす陸の環境と社会の変化(北海道大学北極域研究センター 杉本敦子教授)

サハ共和国を中心にフィールドワークを長年実施している北海道大学の杉本敦子教授に、陸域全

体の環境変化から、そこに暮らす人々の生活について講演をいただいた。特に後者の人々の生活については、シナリオ構築に大きな影響を与えるであろう情報についてご提供いただいた。

(3) 北極域とエネルギー(石油天然ガス・金属鉱物資源機構 本村 真澄氏)

ロシアを中心にした資源開発の状況についての専門家であるJOGMECの本村真澄氏に、北極域での資源開発を中心に講演をいただいた。石油・ガス資源が枯渇することはなく、北極域の石油・ガス資源の開発は、「資源争奪」ではなく「秩序形成」をもたらすであろう、というメッセージをいただいた。

(4) 北極の経済評価のための視点 -気候変動の経済学について-

(北海道大学 成田大樹准教授)

北海道大学の成田大樹准教授より、比較的新しい学問領域である環境経済学から、気候変動の経済に対する影響を評価する方法と、現状について講演をいただいた。気候変動による経済損失を表す指標として、“二酸化炭素の社会的費用”が提案され、政策評価やインフラ投資などで試行が開始されているとのことであった。

(5) ロシア北極圏地域の経済発展(北海道大学 田畑 伸一郎)

ロシア北極地域のマクロ経済全体について、ご講演いただいた。ロシア北極圏での、地域ごとの総生産及び人口増減、環境保護、ロシアに対する制裁の影響、政治的安定性などについて、詳細に解説していただいた。

■今後の展開

講演いただいた内容を、28個の情報に整理しなおし、拠点FS”北極域の産業発展のシナリオ”構築のための入力情報とした。今回の講演で得られた情報、別途調査した情報、共同研究員の知識を加えて、拠点FSの中で、将来の北極域の産業発展のシナリオを構築していく。

【研究論文や著書等】

なし

【研究発表】

なし

【特許等】

なし

【アウトリーチ、取材、その他】

なし